

2017年度決算説明会 主な質疑応答

**Q 1. 鉄道事業におけるダイヤ改正や京王相模原線加算運賃引下げ、および他社での施策等も踏まえた、足元の状況を教えて欲しい。**

- ・昨年度（2017年度）末に、ダイヤ改正（当社、他社）や京王相模原線加算運賃引下げなどが行われたが、対象期間が短いためか2017年度決算に大きな影響は見られなかった。2018年4月に入ってから、あくまで速報であり詳細の分析はできていないが、京王相模原線の京王多摩センター駅、京王永山駅などの乗降人員数は、前年同月と比べて減少はしていない。

**Q 2. 京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の進捗状況を教えて欲しい。**

- ・用地取得については、現在約5割進捗している。2022年度の完了を目標に事業を進めており用地取得に加えて、一部の工事は近々着工する予定。

**Q 3. 中期計画の経営目標である営業利益率改善に向けての取組みを教えて欲しい。**

- ・ここ数年、営業利益率が低下しているとの認識から、従前の水準である10%程度まで戻していきたい。増収による利益積み上げに加え、費用の抑制も含めてセグメントごとに注視していく。

**Q 4. 中期計画における不動産のうち、販売業の増収要因を教えて欲しい。**

- ・中期計画期間において、不動産販売業の収益規模を3年かけて倍増させる計画としており、リノベーション物件や、投資用マンションの売上拡大を見込んでいる。都心部を中心に、販売価格の変動リスク等を考慮しながら実施していきたい。

**Q 5. 中期計画におけるホテル業について、新規分、既存分ごとの増益要因を教えて欲しい。**

- ・レジャー・サービス業の増益32億円（2020年度対2017年度）のうち、ホテル業で約30億円増益の見込みである。このうち新規分では、京王プレミアホテル（京都、札幌）が利益貢献する。既存分では、京王プラザホテルにおいて、稼働率を維持しつつ客室単価の向上に取り組んでいく。また、京王プレッソインにおいて、前中期計画期間に開業した3店（赤坂、東京駅八重洲、浜松町）を中心に増益を見込む。増益のボリュームとしては、既存分での増加の方が大きくなる見通し。

以上